

平成 20 年 12 月 5 日

各 位

株式会社 北海道銀行

ドキュメント管理システムの導入について

株式会社北海道銀行（頭取 堰八義博）では、平成 20 年 12 月 16 日（火）よりイメージ処理を導入した「業務の集中化・効率化・堅確化」を推し進めるため、既に為替業務システムで使用しているインフラを有効活用し、東芝ソリューション株式会社と構築した『ドキュメント管理システム』を全店に導入いたしますので下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 開発経緯・開発思想

- (1) 広大な北海道を営業基盤とする当行において、業務の集中化を拡大するためには距離的・時間的な制約を克服することが課題でした。このような課題を解決する手法として、通信ネットワークと高性能スキャナによるイメージ処理の活用を検討していました。
- (2) イメージ処理を活用した「業務の集中化・効率化・堅確化」を推し進めるにあたって、従来の業務種類単位のシステム構築では非効率かつ拡張性にも限界があるため、* S O A (Service Oriented Architecture) の観点で、イメージ処理を活用し各種業務システムとの連携から文書の保管・管理まで行う機能性と拡張性を備えた共通基盤システムとして『ドキュメント管理システム』を開発しました。

* S O A (Service Oriented Architecture) とは

コンピューターシステムを構築する際の概念・手法。業務上の一処理に相当するソフトウェアの機能を「サービス」と見立て、そのサービスをネットワーク上で連携させてシステム全体を構築していくこと。

- (3) 既に為替業務システムで使用しているスキャナ（全店設置済）・ネットワーク・センターサーバーの有効活用により、システム開発に伴う機器導入コストや操作教育にかかるコストを圧縮しています。

2. 機能・目的

(1) イメージファイリング機能

文書を電子データ（イメージデータ）として保存する機能です。

保存データは、本部・営業店双方から閲覧可能になるため、モニタリング強化により事務の堅確化に繋がります。また、営業店での文書管理負担の軽減、文書の

誤廃棄防止の観点から現在検討中の文書集中管理（保管・管理・廃棄業務の集中化）の際に必要不可欠となる機能です。

導入時は、法令で電子データによる保存が認められている「本人確認記録表」と、預金者データ整備のために作成している「団体預金者区分チェックシート」をイメージファイリングします。

今後は、パソコンサービス等の関係書類、投資信託・保険関係書類、デリバティブ内包型の預金商品書類等のイメージファイリングを行うほか、将来的には営業店で保管している各種書類にまでイメージファイリングの対象範囲を拡大していく予定です。

(2) F A X代替機能（スキャナ送信機能）

営業店から本部へ文書を電子データ化して送信する機能です。F A X同様に使用出来るほか、送受信管理のシステム化、文書送信時に入力したデータを介して各種業務システムとも連携可能なことから、既存の集中業務の効率化や新たな業務集中化を推し進める際に活用する機能です。

導入時は、投資信託システム、個人ローン自動審査システムとの連携をします。既に実施している投資信託集中業務では一部業務をアウトソースしていましたが、大半を当行内部で処理することが可能となったため年間 40 百万円程度のコスト圧縮と事務の効率化に寄与しています。また、新たな業務集中化として導入した個人ローン自動審査システムとの連携に関しては、文書のイメージデータ化を既に為替業務システムで使用しているスキャナを活用したことにより導入コストを低減させ、データ受渡のシステム化を行っています。

今後は、既に集中している保険・外国為替関連業務や、新たな集中業務としてパソコンサービス関連の各種設定業務の集中化を行う際に活用する予定です。また、事務品質アラームシステムや各種イメージデータを取得しているシステムとの連携を図っていく予定です。

以 上

【本件に関する照会先】 北海道銀行 総合事務部 前田 011 815 1193
